



エネルギー・文化研究所は設立以来40年にわたり、日々の営み、人との関係、地域とのつながりから、「住まい・暮らし」を見つめてきました。

近年は、家族だけで暮らしを支えることの限界や、地域や近隣とのつながりの弱まりを背景に、

住まいを社会保障の課題と捉え、

福祉と住宅を結ぶ取り組みが広がっています。

しかし、制度やサービスだけでは、

地域における暮らしを十分に支えきれません。

一人ひとりが他者と関わり、自分なりの役割を持ちながら、主体的に暮らしていくためには何が必要なのか。

研究所が培ってきた「生活文化」の視点をもとに、あらためて、これからの「住まい・暮らし」を問い直します。